

2023～	ソーシャルワーク論			単位数	履修方法	配当学年
				2単位	SR	1・2年
				担当教員	田中 尚	

■授業のテーマ

ソーシャルワーカーの実践力の向上に必要とされるソーシャルワーク理論

■授業の目的

ソーシャルワークの実践理論・モデルと実務・実践活動を結び付け、理論・モデルに基づく対象把握、実践を行えるようにさせる。

■授業の到達目標

- ・ 3つの対象レベル（個人・組織・地域）において、ソーシャルワークの実践理論に基づき、対象の統合的な理解・把握、アセスメントができる。
- ・ ソーシャルワークの理論モデルと結び付けて、自身の実践を振り返り・改善を行う。
- ・ 自らの実践を説明し、相手の理解が得られるよう、実践の言語化等に関連するスキル等を身につける。

■授業の概要

ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成は一体的であり、一般的な「福祉教育」、教育機関による専門教育、実践現場での研修やスーパービジョンなどは、理論と実践の統合のうえで、重層的に行われている。また、今日のわが国においては、ソーシャルワークへの期待が新たな分野にも広がりを見せており、それらの領域でのソーシャルワークの展開が求められている。本授業では、履修者それぞれが自身の関心分野・領域を定め、それについてのソーシャルワークの文献等の調査を行い、実践力の向上と人材育成に焦点を当て、その歴史的経緯を検討するなどを通して、ソーシャルワーク実践の課題を考察する。さらに、ソーシャルワーク理論やその価値とするとところを確認し、実践上の現状とその課題を検討する。検討の枠組みとしては、ソーシャルワークの実践力の向上と人材育成の実践に関連する知識・技術の基盤となる自我心理学、認知・行動理論やエコシステム論など、ソーシャルワークの主要理論の適用などを検討する。また、ジェネラリスト・ソーシャルワークの理解を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロの各視点からのソーシャルワーク実践の理解を深め、価値を生み出すキーワードとして、社会構成主義の観点を取り上げ、実践を批判的に分析することを行う。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	ソーシャルワーク実践理論の理解がソーシャルワーカーの実践力の向上にどのようにつながるかを踏まえて、ソーシャルワーク実践の課題を考察する。	【提出期限】 ☒ 対面授業1週間前まで ☐ 対面授業前日まで ☐ その他 ()
課題 2 (事後課題)	ソーシャルワークの理論とその実践における課題、実践上のジレンマ（実践目標となる価値の実現と倫理的葛藤、ジレンマへの対応を含めて）について考察する。	【提出期限】 ☐ 対面授業後1ヶ月以内 ☒ 受講年度の最終レポート受付日まで ☐ その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリング

では「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

（2）アドバイス



授業の到達目標、概要などを読んで、レポートで取り組む内容をできるだけ絞ることが大切です（広すぎると与えられた文字数では、教科書レベルの内容をまとめただけになってしまいます）。また、大学から送られてくる文献だけでは求められるレポートの質に到達することが困難であることもあり、自身の関心に従ってレポート課題（テーマ）に関する文献を探し出す努力が必要です。大学からの文献は、そのためのガイドとして考えてください。



目標は、ソーシャルワーカーの実践力の向上とその実践現場（環境）についての検討・分析力を高めることにあります。それを意識して、ソーシャルワークの価値・倫理・理論・知識・技術（方法）についての具体的な理解を目指してください。ソーシャルワーク実践における理論と実践の統合、そのうえでの多様な葛藤、ジレンマなどについて、実際に実践・事例を検討・分析することを念頭に選んでください。

（3）在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容（・キーワード）	学びのポイント
1	ソーシャルワークおよび実践研究の基本的考え方	質的研究、量的研究、文献調査、参加観察、面接、アンケート、フィールドワーク、エスノグラフィ、研究倫理	ソーシャルワークにおける様々な研究方法があること、研究倫理の遵守が必須であることを理解する。社会福祉研究論文の幾つかを読み、研究論文の例として参考にする。
2	ソーシャルワークの全体像の理解：価値と倫理	ソーシャルワークにおける価値と倫理	ソーシャルワークが目指す価値とその実現を目指すうえでの実践上の倫理的課題について考察する。
3	ソーシャルワーク実践理論の全体像の把握と確認①	エコシステム理論	生態学的視点とシステム論について調べる。
4	ソーシャルワーク実践理論の全体像の把握と確認②	ジェネラリスト・アプローチの実践への適用	ミクロ・メゾ・マクロ、および各システムの相互作用について、実例を用いて考察する。
5	ソーシャルワーク実践理論の実践への適用①	認知・行動理論	認知・行動理論のソーシャルワークへの適用について理解する。
6	ソーシャルワーク実践理論の実践への適用②	精神分析・人間性心理学	精神分析的アプローチや人間性心理学のソーシャルワークへの適用について理解する。
7	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）①	大学等教育機関におけるソーシャルワーク教育	参考文献を中心に文献調査より、歴史、組織、カリキュラムなどについて調べる。
8	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）②	現場における育成・訓練	現場における学びの特徴、OJT、Off-JT、Self-Development、研修体制について調べる。
9	ソーシャルワーカーの育成（実践力の向上と実践環境）③	スーパービジョン	スーパービジョンの定義、種類、機能、プロセス、技術、倫理、体制について調べる。
10	ソーシャルワーカー育成の歴史・制度	資格制度、養成教育の歴史	わが国のソーシャルワークの資格制度、養成教育の現状と歴史を文献から学ぶ。
11	ソーシャルワーカーの実践力向上①	個人への介入	心理療法・カウンセリングの諸アプローチ・技術を意識する。
12	ソーシャルワーカーの実践力向上②	家族への介入	家族療法の視点からシステム論的思考のあり方を理解する。
13	ソーシャルワーカーの実践力向上③	組織への介入	社会構成主義の観点から現状を考察する。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
14	ソーシャルワーカーの実践力向上④	制度への介入	ミクロ・メゾ・マクロの相互関連性を理解する。
15	ソーシャルワーカーの養成・育成上の課題	ソーシャルワーク価値を基盤にした養成教育	ソーシャルワークサービスの質とソーシャルワーカーの実践力の向上との関連を理解し、ソーシャルワークが目指す価値の実現に基づき批判的に考察する。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：35時間以上)

- ・「在宅学修15のポイント」を包括的に学修し、2の「ソーシャルワークの全体像の理解：価値と倫理」について、自身で調べたことを1,600字程度にまとめる。(対面の演習の1週間前までに提出。)

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	ソーシャルワーク実践理論の全体像の把握と確認について、講義する。受講生は、ソーシャルワーク実践理論の把握と確認を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	ソーシャルワーク実践理論の歴史の変遷について、講義する。受講生は、ソーシャルワーク実践理論の歴史の変遷を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	ソーシャルワークの実践理論① 自我心理学のソーシャルワークへの適用を中心とした心理社会的アプローチについて、講義する。受講生は、心理社会的アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	ソーシャルワークの実践理論② ソーシャルワークの機能的アプローチの実践への適用について、講義する。受講生は、機能的アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	ソーシャルワークの実践理論③ ソーシャルワークの問題解決アプローチの実践への適用について、講義する。受講生は、問題解決アプローチを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	ソーシャルワークの実践理論④ 家族療法とソーシャルワークについて、講義する。受講生は、家族療法による家族システム理論を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	ソーシャルワークの実践理論⑤ 認知療法とソーシャルワークについて、講義する。受講生は認知理論のソーシャルワーク実践について理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
8	ソーシャルワークの実践理論⑥ 行動療法とソーシャルワークについて、講義する。受講生は行動理論のソーシャルワーク実践について理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
9	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、課題中心アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
10	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、生態学的アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
11	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、ジェネラリスト・アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
12	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、ケアマネジメントによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
13	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、ソーシャル・サポート・ネットワークによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習

	授業の内容	授業の方法
14	ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、エンパワメント・アプローチによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習
15	まとめ ソーシャルワーク実践理論の今後の展開について検討する。特に、構成主義・ナラティブによる実践に照らし検討する。受講生は、グループ討議を行いながら、理解を深め、実践への活用を図る。	対面の演習

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：30時間以上)

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート（25%）、課題2レポート（25%）
- ・スクーリング（50%）

■参考文献（*印＝大学から送付される必読図書）

- *1) 久保紘章・副田あけみ (2005)『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店.
- 2) 日本社会福祉学会機関誌（最新版）『社会福祉学執筆要領「引用法」』（コピー）
- 3) 伊藤淑子 (1996)『社会福祉職発達史研究：米英日三カ国比較による検討』ドメス出版.
- ※3) の図書は、新品在庫僅重版予定無しのため配本できませんが、非常に大切な内容ですので、中古を手する、または図書館で借用するなどしてお読みください。
- 4) 好井裕明 (2006)『「当たり前」を疑う社会学』光文社新書.
- 5) Schon, D. (1984) The reflective practitioner: how porfessionals think in action, Basic Books. (=2001, 佐藤&秋田訳『専門家の知恵』ゆみる出版.)
- 6) 小池和夫編 (2006)『プロフェッショナルの人材開発』ナカニシヤ出版.
- 7) Polanyi, Michael (1996) The tacit dimension. Routledge & Kegan Pau. (=1980. 佐藤敬三訳『暗黙知の次元』紀伊国屋書店.)
- 8) 金井壽宏 (2012)『実践知』有斐閣.
- 9) Gergen, K. (1999) An invitation to social construction, Sage. (=2004, 東村知子訳『あなたへの構成主義』ナカニシヤ出版.)
- 10) Flick, Uwe (1995) Qualitative forschung. (=2002, 小田他訳『質的研究入門』春秋社.)
- 11) 平山尚他 (1998)『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房.
- 12) 太田義弘 (1992)『ソーシャル・ワーク実践とエコシステム』誠信書房.
- 13) 遊佐安一郎 (1984)『家族療法入門：システムズ・アプローチの理論と実際』星和書店.
- 14) Toseland, R & Rivas, R. (1998) An introduction to group work parctice (=2003, 野村豊子監訳『グループワーク入門』中央法規出版.)
- 15) Obholzer, A. & Roterts V. Z, (2006) The unconscious at work: individual and organization stress inhte human services, (=2014, 武井麻子監訳『組織のストレスとコンサルテーション』金剛出版.)
- 16) 高良麻子 (2017)『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル』中央法規出版.
- 17) Goldstein & Noonan (1999) Short-term treatment and social work practice. Simon & Schuster, inc. (=2014, 福山和女他監訳『総合的短期型ソーシャルワーク』金剛出版.